

竜の子奨学生

第28号
Mar.2022

その夢は、きっと世界を変えていく
The dream surely changes the world.



第40回交流会



第40回交流会レポートより



第40回交流会レポートより

CONTENTS

- ② 卒業生の「現在の夢」
- ③ 第40回交流会レポート
- ⑥ SPECIAL REPORT I
- ⑧ 竜の子近況報告
- ⑪ 竜の子 (OB・OG) 近況報告
- ⑭ SPECIAL REPORT II
- ⑯ 編集後記



公益財団法人 竜の子財団
Tatsunoko Foundation



現在の夢



曹 洋

1985年 中国遼寧省瀋陽市
生まれ
2004年 日本留学
2007年～2010年
竜の子財団在籍
2016年 京都大学大学院医
学研究科（社会健
康医学系専攻）博
士後期課程修了
博士（社会医学）
取得
2016年より
聖マリアンナ医科
大学 予防医学教室
助教

私にとって、竜の子財団でお世話になった日々は、今でも記憶に鮮明で、その感動と感謝の気持ちは忘れることがありません。経済的、精神的な困難に直面していた学部生の時、ご縁に恵まれ、私は竜の子大家族の一員になりました。秋元理事長を始めとして、多くの財団関係者の方々、寄付者の方々にいつも暖かく見守っていただき、支えていただきました。さらに、数多くの財団交流会を通じて、野球観戦や富士登山をはじめ普段の留学生活で体験できない貴重なチャンスを与えていただきました。日本の文化や精神を学び、仲間と助け合いながら視野を広げ、自分を大きく成長させることができました。財団で学んだこと、身につけたことを生かし、夢に再チャレンジすることができました。本当に竜の子財団のおかげで、人生が変わりました。改めて深く御礼申し上げます。

時が立つのは早いもので、私が大学教員として勤め始めてから、もう5年以上が経過しました。予防医学関連の講義や実習を通じて多くの医学部生を指導し、担当分野（環境保健）の基本知識を正しく理解させ、衛生学・公衆衛生学への関心を持たせるように努めています。また、限られた外国人教員の一人として、学生指導を通じて、将来グローバル社会で活躍できる臨床医になるための国際的な視野を持たせるように工夫しています。医師国家試験は簡単ではありません。これまで、苦勞している多くの学生と一緒に勉強してきました。小さな積み重ねによって苦勞を乗り越えて、医師国家試験合格！という形で報われた瞬間、本当に良かったと思います。感謝を伝えてくれた教え子たちの笑顔は、一生忘れません。彼らはきっと最善の方法で病気や怪我の治療をし、人々の命を助ける素晴らしい医師になれると信じています。

「誰かのために生きてこそ、人生には価値がある」という名言の通り、本当の豊かさや幸せがここにあると思います。社会人になった私は今、医師を目指す若い学生たちの夢を応援する立場になりました。ささやかな力ではありますが、これからも理事長からいただいた助け合う精神と信念を貫き、自分の行動でもっと夢の輪を広げていきたいと思っています。これは、現在の自分の夢でもあります。

私は現在、二児の母として、子育て奮闘中です。長女は「お医者さんになって困った人を助けたい」という夢を持っています。その実現に向けて、世界の人々を愛する善良な人間に成長し、将来社会に貢献してもらいたいと強く願っています。

お礼の言葉

この度、竜の子奨学生を代表して、寄付者の皆さまにお礼の言葉を申し上げます。

私達はそれぞれの夢を持って日本に留学しました。本来は、アルバイトに時間を削りながらの厳しい学生生活になるところでしたが、竜の子奨学金による時間的、金銭的な支えはとても大きく、それぞれの分野の勉強にエネルギーを注いで没頭する毎日です。寄付者あってのわれわれの夢の実現といっても過言ではありません。また、毎年の交流会・雑誌作りなどの活動を通して、現役生やOBOGとの距離が近づき、仲良くなり、研究や私生活などに悩んだ時の相談相手になってくれます。竜の子財団は経済的にも精神的にも我々の支えであり、竜の子ファミリーの一員になったことは本当にラッキーであると実感しています。寄付者の皆さまからお寄せいただきましたご厚志や温もりを無駄にすることのないよう、我々はそれぞれの研究分野で日々努力してまいります。

皆さまのご寄付のおかげで、すでに何十期もの卒業者がおります。OBOGは皆、世界各地にてそれぞれの分野で輝き奮闘し、自分なりの社会貢献を行っています。

重ねてお礼を申し上げますと共に、皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

（令和元年度竜の子奨学生 九州大学 楊 茹）

第40回交流会レポート

令和3年11月6日、竜の子奨学生の第40回の交流会は千葉で開かれました。今回はアスレチックで、達成感満点のアクティビティに挑戦し、大自然を満喫しました。奨学生たちも久々にコミュニケーションを取り、とても貴重な時間を過ごしました。

コロナ禍で2年間中断していた竜の子財団の交流会を再開しました。今回のテーマはアスレチックでした。新型コロナウイルス以降、アウトドアスポーツをする機会は少なくなりましたが、今回の交流会のおかげで、普段の運動不足を解消して体を鍛えるだけでなく、奨学生同士の交流も深めることができ、とても素晴らしい交流会となりました。

交流会の当日、午前8時15分、奨学生たちは予定通り財団事務所前に集合しました。奨学生12人でそろってバスに乗り込みました。目的地への移動中、半年ぶりに会った奨学生たちは再会を喜びながら語り合いました。そのバスの中で、スケジュールを受け取り、今回のアスレチックがフォレストアドベンチャーというアウトドアパークで行われることを知りました。未経験の奨学生が多く、着いたら何をするのか話しながら期待がますます高まりました。



元気な集合写真



コーチの説明を真剣に聞いている皆さまの様子

約2時間バスに乗り、今回の目的地に着きました。フォレストアドベンチャーという名前ですが、実はフランス発の“自然共生型アウトドアパーク”です。直訳すると「冒険の森」だそうです。なんともワクワクする名前ですね！ぽかぽか暖かい秋の行楽日和で、皆の気分もどんどん盛り上がる中、早速アクティビティを始めました。まずはスタッフさんにハーネスを装着してもらって、安全講習を受けました。皆が不安にならないように、スタッフさんに器具の扱い方、コースの渡り方、注意事項などを丁寧に説明してもらいました。



準備はOK？



アクティビティ挑戦中！



一通りの講習を終えたら、いよいよ本番のコースです！
2mくらいの低い練習のコースとは違って、本番のコースはかなり高度（約10m）があり、なかなか難易度が高いです。怖がっている奨学生もちろんいますが、全員が互いに応援し合い、助け合い、なんとかスリル満点な5つのアスレチックをクリアしました（途中から絶叫がずっと響いていましたが）。11月なのに、皆いっぱい汗をかいていました。「これで全部クリアした」皆がそう思ってホッとしたとき、スタッフさんから最後のチャレンジがあると告げられました。最後の挑戦はなんと、関東一長い445mのロングジップスライドでした！



ガールズ達の自撮り写真

心の準備をする時間はあまりなく、最後の出発点に着きました。50m以上の高さで445mの長さがあり、足が震えましたが、皆で最後の挑戦に立ち向かいました。2人同時で一気に滑り降りるとき、まるで空を自由に飛んでいるような感覚になり、思わず「アーアー！」と叫び、ターザン気分を味わえました。全部クリアした感想は、最初の恐怖心を乗り越えたら、それほど怖くなく、楽しかったです。何より森の中で遊ぶのはとても爽快でした！



ロングジップスライドをする姿

アクティビティから戻ったら全員腹ペコでバーベキューを始めるのが待ちきれないほどでした。皆で役割を分担し、物凄く美味しい食材を焼きました。1時間ほど、皆で豪華な肉と海鮮を味わいながら普段なかなか話さないようなことをシェアし、とっても賑やかな昼食でした。食後は自由時間で、大浴場に行ってみました。温かいお湯で一日の疲れが癒されて最高でした！



バーベキュー場の様子



17時頃、記念撮影を行った後、帰りのバスに乗り、新宿駅に向かいました。交流会もいよいよフィナーレを迎え、バスの中でとても名残惜しく感じました。本当にアツという間の一日でしたが、竜の子奨学生達は日常では体験出来ないアクティビティに参加して大自然を満喫することが出来ました。今回の交流会は、それぞれ留学生活にいそしむ奨学生たちが繋がって、お互いの絆を深める場として大変有意義なものだったと感じました。また次の交流会を心待ちにしています！



少しふざけている集合写真

(担当：令和2年度竜の子奨学生 京都大学 鄒 可昕)

SPECIAL REPORT I

● インドネシアのジャワの伝統的な結婚式 ●

インドネシアは、独自の伝統や文化が豊かな国の一つです。世界最多の島嶼を抱える島国であり、各地域ごとに、約300種類の文化や言語が存在します。例えば、結婚式もスマトラ島とジャワ島では異なります。ジャワ島の結婚式は、インドネシアで最も一般的な伝統文化です。さらに、結婚式の準備はジャワ島の中でも様々なやり方があります。伝統的なジャワ島の結婚式は、準備を含めて6つの儀式に分かれています。

1. シラマン儀式

シラマンは結婚前の伝統的且つ義務的な儀式です。この儀式は、新郎新婦が別々に自分の実家で行います。この儀式の目的は、故意かどうかにかかわらずこれまでの誤ちを洗い流し、心身を清めることです。シラマンを行う人数は、通常、両親を含めて7名までとされています。新婦の父は、この儀式を終えると新婦をブライダルルームに連れていきます。



シラマンの儀式

3. ミドダレニ儀式



ミドダレニの民族衣装

2. ペニンセタン

ペニンセタン（スラスラハン）は新郎からの贈り物です。2つの家族をつなぐ贈り物を意味するジャワ語の「シンセッ」に由来する言葉です。新郎は彼の家族とともにペニンセタンを持って新婦の実家に行きます。その時、新郎の家族は家の中に入りますが、新郎は入ることが出来ず、外のベランダで待たなければなりません。その間、水一杯を飲めるだけで、食事や夜中になるまで食べられません。飢えや誘惑に負けないようにという教えなのです。

ミドダレニとは、ジャワ語の「ウィドダリ」に由来する言葉で「天使」を意味します。この儀式は結婚式の日、新婦が天から降ってきた天使のように美しく見えるようにするためのイベントです。結婚式前日、新婦は将来の夫に会うことができません。また新婦は結婚式前日の午後6時から真夜中まで、部屋の外へ出ることはできません。新婦は翌日から夫が庇護者となるため、この日新婦の両親は最後の食事を作ってあげます。

4. パンギー儀式

パンギーはジャワ語で「会う」という意味です。新郎は近親者を伴い、新婦の実家に行きます。新婦は二人の老女に連れられてブライダルルームを出て、新郎と対面します。そして、3メートルほどの離れた位置で、檳榔の葉を7束ずつ投げ合います。昔話では、檳榔子には悪霊を追い払う力があると言われています。またパンギー儀式の中に、ソンケマンという儀式があります。ソンケマンでは、新郎新婦は両親にひざまずき、自分たちの過ちを謝罪し、両親の祝福を求めます。



ソンケマン儀式

5. イジャブ儀式

イジャブは、結婚を合法化するための最も重要な儀式です。新郎新婦はお互いに約束の言葉を言います。イジャブ儀式は通常、結婚式と同じ日に行われます。



イジャブ儀式

6. 結婚式

結婚式では、新郎新婦は舞台に立ち、長時間来客と一緒に祝いします。その間に、ジャワの伝統的な踊りのパフォーマンスも行います。



結婚式

ジャワの結婚式には、たくさんの儀式があります。それぞれの儀式には様々な意味と様々な価値があります。現在では、すべての儀式を行うのではなく、伝統的な結婚式と現代的な結婚式を組み合わせる行うことが主流となっています。伝統的な儀式を行うことで、結婚が祝福され、いつまでも幸せに暮らせるようにと願うのです。

(担当：令和3年度竜の子奨学生 東京工業大学 アルビ ルフィア ジョフィ)

竜の子近況報告



バイオパークでのイケメンアルパカさん

チョウ シュンキ
趙 春琪 (中国)

東京大学 情報理工学系
創造情報学専攻 博士2年

「九州の旅」

東京大学の趙春琪です。クリスマスの前に、長く取り組んでいたプロジェクトが3回のReject後やっと採択されました。Topではないですが、次こそ他のアイディアでTopも挑もうと思っています。そろそろ博論Yearに入りますが、Topで通るよう最後まで諦めずに挑戦します。

冬休みは、友人と長崎・福岡・大分三県の車旅をしました。

別府地獄めぐりで、様々な奇妙な地獄景色を見ました。長崎のバイオパークで従順な動物たちと触れ合い、癒されました。



戸隠神社にて

サイ レイカ
崔 麗華 (中国)

京都大学 農学研究科
森林科学専攻 博士3年

「2021年の年末旅行」

私は毎年年末に、一年間頑張った自分へのご褒美として一週間ぐらいの旅行を計画します。私は中国の寒い地域出身ですので冬は毎日雪を見ていましたが、京都に来てからはあまり見られなくなりました。長く実家に帰れないこともあり、今年は雪が見たいなと思って長野に行くことにしました。

長野の真っ白の深い雪を見た時は感無量でした！長野のパワースポットである戸隠神社までハイキングして、神々しい雪国の景色を満喫しました。参道の樹齢400年の巨大な杉並木は圧巻ですので、皆さんも機会があればぜひ行ってみたい。戸隠そばも本当に美味しくて毎日2食そばを食べました。これでまた2022年も頑張れます



スキーの姿（本人が左側）

オウ カネイ
王 佳寧 (中国)

北海道大学 教育研究科
教育行政学専攻 博士3年

「冬ならではの楽しさースキー！」

今年もよろしくお願いします。私は今年の冬休みに北海道に行きました。北海道は聞いていた通り寒かったです！本当に寒くて、地元の人はどうやって生活しているんだろうと思いました。しかし、今まで日本で過ごした中で最高の冬休みでした。私はこのすべての食べ物が大好きになりました。地元の人は私たちをととても歓迎してくれました。一番楽しかったのは、スノーモービルに乗ったことです。1時間30分かけて山の頂上まで行きました。寒い中、山を登るので、とても過激なアクティビティでした。しかし、頂上に着いた時、疲れがふっ飛びました。その景色は、本当に息をのむほど美しく、まるで天国にいるような気分でした。

冬休みが終わって学校に戻り、今は実験や論文をやっています。大変ですが、最後の最後まで、頑張ります！



北海道の旅

ファウズィア カマリナ (マレーシア)

東京電機大学 理工学研究科
電子・機械工学専攻 修士2年

「スノーランドでスノーモービを楽しむ」

みなさんこんにちは。年末年始は内定先の忘年会に行ったり、大掃除をしたり、修士論文を書いたりデータをまとめたりしながら毎日忙しく過ごしました。少し疲れた時はSNSでみなさんの活躍する姿を見ると笑顔になります。

1月に無事に論文を提出し、2月の発表で修士としての仕事は一応終わりになると思いますが、そう考えると少しさびしくなったりもします。なので、やるべきこと、やりたいことに最後まで最善を尽くして悔いが残らないようにしたいと思います。



東京ディズニーシーでの友人と私

シュレスタ シモナ (ネパール)

立命館アジア太平洋大学
アジア太平洋学部 4年

「東京の旅」

立命館アジア太平洋大学のシモナです。この冬休み、私は友人と一緒に東京に旅行しました。いろいろなところを回って、おいしいものもたくさん食べて、とても楽しかったです。長い間頑張ってきた疲れを癒すことができて、とても気持ちよかったです。

旅行から帰ってきて、また学生生活を再開しました。さまざまな授業を受けると同時に、卒論の研究と執筆を始めました。さらに、1年生をサポートするTAにも参加しています。

オミクロンの影響で日本でのコロナ感染者もまだ多いですが、皆さんも気をつけてお過ごし下さい。早く皆さんに会えることを祈っています。



スキー初挑戦

アルビ ルフィア ジョフィ (インドネシア)

東京工業大学 環境・社会理工学院
土木・環境工学系 修士2年

「長野の冬休み」

冬休みはいかがお過ごしでしたか？私は友達と長野にスキーに行きました！スキーは初挑戦だったのでとても楽しみでしたが、想像していたよりもずっと難しかったです。しかも、私と友達はリフトに乗って上へ上へとはいしゃいでいたので、「上級者専用」という看板を読まずに上まで登ってしまいました。結局、途中で何度も転んでしまい、歩いて下山しました。2日目は、スノーボードに挑戦しました。スノーボードはスキーより簡単だと思います。しかし、雪がたくさん降っていたのでとても寒く、メガネも曇ってしまいました。でも、雪が降っている景色はとてもきれいでした。全体として、とても楽しい経験でした。



大晦日に友たちと魚の餌やり (本人右)

曾 嘉林 (中国)

九州大学 総合理工学府
物質理工学専攻 博士2年

「就活あと半年 月火水木金金金」

私は9月に卒業する予定ですが、早い企業だと6月くらいに早期選考が始まるので、就職活動始めるまであと半年くらいしか残っていません。就職活動に関しては少し不安ですが、最近は大学の就活講座に参加したり、企業研究や自己分析など、今できることからやり始めています。去年の年末まで論文データを集めるために休日返上で頑張りましたが、お正月にちゃんと休みましたので、今年も学会と中間発表と就活のために、月火水木金金金で頑張っていきたいと思います！



私と愛猫

伊 詩軒 (中国)

早稲田大学 教育研究科
学校教育専攻 修士2年

「ねことの暮らし」

皆さんお久しぶりです、早稲田大学教育学研究科の尹です。私の近況ですが、修士論文に向けて何ヵ月もかかって努力を続け、やっと1月に無事に終わりました。それまで本当に毎日部屋に引きこもって、誰とも会えない地獄みたいな生活を送りましたが、ねこの太陽ちゃんが私の側にいてくれたから、なんとか乗り越えられました。太陽のことが大好きです。



海に沈む夕陽を望む

ヨウ ジョ
楊 茹 (中国)

九州大学 生物資源環境科学研究科
 環境農学専攻 博士2年

「海でリフレッシュ」

中国内陸部出身の私は、子供の頃から気軽に海に行ける環境に憧れていました。先日、友人と少し遠い海に遊びに行きました。その海は田舎の方にあり、冬の平日だったこともあって、ほとんど人の姿がありませんでした。明るいうちから夕日が沈んで暗くなるまで、半日ほどゆっくりと過ごしました。友人と潮の満ち干きを追いかけて走ったり、大声で笑ったりしてふざけ合いました。すっかり暗くなったあとも、ビーチに横になって星空を見上げながら、最近あったことや、将来のことを語り合いました。久しぶりの非日常を満喫して、心身共にリフレッシュすることができました。



くら寿司にて

キ エンエン
冀 媛媛 (中国)

名古屋大学 人文学研究科
 人文学専攻 博士2年

「集中モードと遊びモードの切り替え」

研究室に行って一日中パソコンの前で過ごす日々が多いことと、コロナウイルスの関係で外出を控えていることで体力が低下しています。「このままではまずい！研究のためにも体のためにもランニングを始めよう」と思い、昨年の四月から朝のランニングを始めました。最初は慣れなくて、ベッドから起き上がりにくい日もありましたが、今は何とか朝ランニングを習慣化できました。そろそろ新しい論文の執筆に取り組む時期にきていますが、体力の心配は一切ないです！



ドッグランにて

ホセニルテ セイエドシャリヤル (イラン)

東海大学 工学部 4年

「コロナ禍での楽しみ」

皆さんお久しぶりです。お元気でしょうか？私は東海大学工学部建築学科4年のホセニルテ セイエドシャリヤルと申します。この冬は、コロナの新種が流行りましたが、皆さまは大丈夫でしょうか？私もコロナ禍の中でも大学での研究やアルバイトなどを頑張っております。しかし、たまには息抜きの時間が欲しいと思い、ドッグランに行ってきました。コロナ禍で基本は家にいるか、学校での研究か、アルバイトに勤しんでいたもので、久しぶりに息抜きが出来、動物と戯れることができて、元気になりました。この息抜きのおかげで、これからの勉学やアルバイトもより一層頑張れるような気がします。皆さんもコロナにかからないように気をつけながら頑張っていきましょう。



西武遊園地にて

チョウ シライ
張 惜来 (中国)

一橋大学 経済学部 3年

「息抜き」

去年は、就活と長期インターンで、息が詰まるような日々を過ごしました。私は、自分のことをよく分かってないかもしれないと、改めて感じました。弱点を知ることが、改善への第一歩であると信じています。乗り越えた壁はやがて盾となると信じています。写真は、息抜きに訪れた西武遊園地です。リンゴ飴は食べきれませんでした。



河口湖前の写真

ゾウ カシン
鄒 可昕（中国）

京都大学 人間環境学研究科
相関環境学専攻 修士2年

「修論との苦闘」

皆さん、お久しぶりです。京都大学人間環境学研究科のカシンです。昨年12月初めに富士山周辺の観光をしました。めっちゃ楽しかった！日本に三年以上滞在していますが、今回ようやく富士山の正体を間近で見えました。思ったよりデカイですね。

旅から帰ると、修論との苦闘が始まりました。ディスカッションの部分から何度も書き直しを指示されたので、辛かったですが、締め切りまでに無事に提出しました。でも追加実験もまたいっぱいありますので、これからも卒業に向けて頑張りたいと思います。



博士入学試験後に

イ ジェヒ
李 宰熙（韓国）

筑波大学 人間総合科学研究群
体育学専攻 修士2年

「新しいスタート」

修士論文を無事に終わらせて、最終の審査でもいい評価をもらうことができました。修士論文の最終審査の結果に基づいていい評価をもらい選別された人のみ出場ができる‘修論コンクール’に出場することになりました。

この大会は毎年3月1日に開催され、発表の評価が高い人に優秀論文賞という賞をもらいます。今まで留学生が入賞したことはないのですが、今回の大会で留学生初の入賞を目指して一生懸命準備しています。

また、2月1日には博士後期課程への入学試験がありました。入学試験も無事に終わって、今結果を待っています。博士後期課程に進学しても初心を忘れずに頑張りたいと思います。

竜の子(OB・OG)近況報告

「今年はとても濃い一年でした」

皆さま、お久しぶりです。卒業生の朴です。

大学院卒業後、企業で香りの開発をしています。私生活では二年前に結婚し、昨年の9月には元気な男の子を出産しました。最近はニコっとよく笑うようになってとてもほっこりしています。またずっと夢だった副業カメラマンになることができました。週末は夫の協力のもと、写真撮影をし、リフレッシュ出来ています。

出産、育児、副業をはじめるといふ変化の多い一年でしたが、とても生き生きと楽しく過ごすことができました。今年こそ韓国に行けることを祈っております。皆さまも元気で過ごして下さい！



息子と私

パク ハリン
朴 夏林（韓国）

東京工業大学卒業

「4人家族になりました。」

日本を離れて6年目になりました。あっという間に2022年になったような気がします。私は韓国の昌原大学の特殊教育科で助教授として働いています。去年娘が生まれて4人家族になりました。今年、育休から復帰して仕事と育児を両方頑張っています。COVID-19の状況が早く収まりOB・OG会で会えることを期待しています。



家族写真

キム ウンハ
金 恩河（韓国）

筑波大学卒業



夕暮れ時の西湖

チ ジンウイ
祁 婧鈺 (中国)
東北大学卒業

「西湖にて」

私はチ ジンウイと申します。昨年10月に卒業し、帰国しました。帰国後すぐに、新型コロナウイルス対策のため、方針に従って1ヵ月間隔離されました。現在は就職活動中で、同時に論文の修正作業をしたり、日本語の勉強を続けたりなどしています。

杭州の西湖は一度行ったことがあります、杭州の有名な観光スポットです。美しい伝説と美しい景色がある場所です。特に夕暮れ時の西湖はすばらしく、静かで美しい湖の景色を見ながら日没を待つと、一日の落ち着かなさや疲れがとれて平和な気持ちに戻ります。



先日プロジェクトミーティング時の記念撮影

ギ トウキ
魏 登輝 (中国)
東京外国語大学卒業

「日本の技術よ、世界に羽ばたけ」

今、群馬大学の研究室のご協力を得ながら、農地や工業用地の跡地の土壌を改良するプロジェクトに携わっています。この技術を用いれば、ガソリンスタンドの跡地を綺麗な土壌に戻すことができるので、現在急速に電動車社会化が進んでいる中国でその活用がとても期待されています。今はまだ辛抱の時ですが、コロナ後の世界に対するワクワク感が止まりません。

「私はシドニーの非政府組織であるNGOで 望み通りの仕事を見つけました。」

昨年、オーストラリアにおけるベトナム人向けの情報チャンネルのコラボレーターとして働いていた時、望み通りの仕事を見つけました。それは障害者、及び特別な事情のある人のために雇用を支援する、オーストラリア政府のDESプログラムにおけるWISE非政府組織のコンサルタントです。この仕事では、私は、障害を乗り越え、キャリアを築き、将来を發展させるために適切な仕事を見つける機会、及び動機を探したいと思っています。私がやっている仕事はとても意味のあるものだと感じています。さまざまな文化の人々、及びさまざまな背景の人々と交流し、彼らの話を共有し、耳を傾け、彼らに同行する機会があるので、やりがいと幸せを感じます。日本のお客様にもベトナムのお客様にも会ったことがあります。彼らも私が彼らの助けになり、とても嬉しく思っていると言ってくれました。



オーストラリアにて (本人右から2番目)

レティトゥヴァン (ベトナム)
九州大学卒業

「人生最高のプレゼント」

竜の子財団の皆さん、お久しぶりです！名古屋大学社会環境学と竜の子財団を卒業して以来、みずほ銀行深セン支店に勤務し、平和な日々を過ごしております。2022年寅の年を迎えると同時に、人生最高のプレゼントをもらいました！1月23日の午後2時、春節の準備でバタバタした雰囲気の中、可愛い赤ちゃんが誕生しました。深センは「鵬城(鳳のつばさのように急速な発展都市)」と呼ばれているので、赤ちゃんの名前を「鵬鵬」と決めました。毎日鵬鵬の寝顔と笑顔をみながら、新しい人生のステップを歩んでいきたいです。コロナ過で日本に戻る機会がありませんが、いつかコロナが収束した時は、皆さまとの再対面を楽しみにしております。



海浜にて

リュウ エイ
劉 睿 (中国)
名古屋大学卒業



中国浙江省政治協議会委員会に参加しました

チョウ チュウ
張 冲 (中国)
立命館大学卒業

「中国浙江省政治協議会委員になりました。」

新型コロナのために、私たちのライフスタイルは変化しつつあります。僕は昨年6月に日本に一度戻りましたが、今は半年以上中国に滞在しています。中国に戻る際には14+14日、計28日間ホテルに隔離されました。中国での環境事業は順調に進んでいます。21年の最大の成果は中国浙江省政治協議会委員になったことです。

浙江省に來られたら、是非一度ご連絡下さい。これからは私たちが互いに連携し初心を持って、日々努力を尽くすことで、その夢はきっと世界を変えていくはずですよ。



和楽器のお箏を本格的に習い始めました

チョウ セイヨウ
張 政陽 (中国)
東北大学卒業

「東北大学の助教授になりました」

皆さま、2020年に東北大学を卒業した張政陽でございます。私は博士号取得した後から現在に至るまで、東北大学の助教授として働いています。いきなり先生になり、講義・学生指導・研究などで余裕のない日々を送る中で、様々な知識を吸収して高いスピードで吐き出す能力がとても鍛えられています。成長した自分を嬉しく思う一方で、常に鋭意改良に努めています。

また、社会活動の抑制を余儀なくされている今こそ、心の余裕を作ることが重要だと考え、和楽器のお箏を本格的に習い始めました。舞台の演奏まで100回の練習が必要だと言われ、心に寄り添う曲を弾くたびに感じ方が異なり、とてもエンjoyしています。人生にもこのようなりハサルが必要です。失敗を恐れずに幕が開くまで楽しく自分を鍛えていきましょう！

「私の恩返し」

皆さん、お久しぶりです！そして、はじめまして。竜の子OG、第一期生の郭甜甜です。大学院卒業後はGCA (株) (M&Aアドバイザー業務)に入社し、その後主人とロンドンに渡りました。のちに、再び東京に戻り、現在は二児 (小2、8歳の娘と年少、4歳の息子)の母をしながら、公文式の学習塾 (KUMONいくもーんでお馴染み)を東京杉並区自宅付近で主催し、50名弱の生徒を指導しております。子どもを育てるのは私自身子どもの時からの夢でもありました。今のように、自分の子どもだけでなく、地域の子どもの成長を身近で支えて、見守ることができ、本当に幸せだと感じています。留学生時代に、竜の子財団から奨学金をいただいたからこそ、日本での学業を無事に終えることができました。たくさんの貴重な経験や思い出を私の人生に刻んでくださったのも、財団です。恩返しはさまざまな形があると思いますが、私はこうして、日本の社会に少しながら、貢献をし続けて、恩返しをしようと思っています。小さな教室ならでのこと、学力向上はもちろんのこと、地域に特化した親しみや温かみのある教室を目指しており、これからも頑張っていこうと思っています。また皆さんとお会いすることを楽しみにしております。

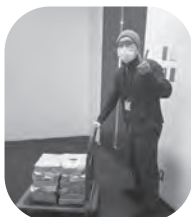


家族と遊びに行ったときの写真

カク テンテン
郭 甜甜 (中国)
東京海洋大学卒業

「所属機関の運営と他大の非常勤講師を務めております。」

ご無沙汰しております。財団を卒業してから1年が経ちました、財団の皆さまはお元気でしょうか。仕事面については、本所属機関の運営と他大の非常勤講師を務めさせていただいております。コロナの前と比べて、8割以上の業務がオンラインとなっております。試行錯誤の繰返しの中で少しずつ進んでいます。研究面については、昨年の6月に学位申請論文を提出し、今年の2月に無事に審査を合格いたしました。過去の3年間、財団からのご支援いただいたおかげで勉強に集中することができています。皆さまに心からお礼申し上げます。



資料を運んでいる様子

キン エキゲン
金 奕群 (中国)
早稲田大学卒業

SPECIAL REPORT II

● マレーシアの伝統的な料理 ●

マレーシアにはいろいろな伝統文化がありますが、最も伝統的なもののひとつが料理です。東南アジアに位置するマレーシアは、多くの異なる文化の本拠地となってきました。その立地、貿易、植民地時代の歴史により、世界の各地域から大きな影響を受けてきました。人口の半分以上がマレー系、4分の1が中国系、7%がインド系と、さまざまな民族からなる非常に多様性のある国です。そのため、マレーシアの料理は世界中のさまざまな文化の影響を受けています。主にタイ料理、中華料理、インドネシア料理、インド料理の影響を受けています。これらの影響は、調理法や道具、料理に使われるエキゾチックな風味のスパイスなどに表れています。ここでは、そんな伝統的な民族料理の中から、マレーシアの人々が楽しんでいるものをいくつか紹介したいと思います。

<マレー系のナシレマツ>

マレー語で“Nasi Lemak”と綴り「ナシレマツ」と発音します。英語では“Steamed Coconut Milk Rice”と訳するのが一般的です。ナシレマツは、ココナッツミルクで炊いたご飯と少し辛いソース、小魚、ピーナッツ、茹で卵とで食べる料理です。ココナッツミルクの油分が「レマツ」の由来です。マレーシアでは、朝ごはんの定番料理で、コタキナバルでもよく道路の脇やクダイコピで、バナナの葉っぱでピラミッド型に包まれて売られています。ココ

ナッツミルクで炊いたご飯は皆さん初めて聞くと思います。変な料理じゃないかと思われるかもしれませんが、少しココナッツの風味はありますが、知らなければココナッツミルクで炊いたとは気づきません。ココナッツミルクのおかげで、お米がしっとりパラパラに炊きあがり、冷えても美味しく食べることができます。マレーシアで一番有名な料理なので、ぜひ機会があれば食べてみて下さい。



フライドチキンとナシレマツ



いかのスパイシーソースとナシレマツ

<中国系のラクサ>

マレーシアやシンガポールで「ラクサ」といえば、ココナッツ風味のカレー麺を思い浮かべる方が多いでしょう。しかし、マレーシアのペナン島で有名な中国系料理は「アッサムラクサ」です。アッサムラクサはカレー風味ではなくシーフードでダシを取った辛くて甘酸っぱい麺料理なのです。鯖や鰹を茹でた後、フレーク状にした魚肉と発酵させた小エビ

でダシを取った潮汁に、マイルドですが強烈な酸味を伴うタマリンドの絞り汁とたっぷりのチリを投入した、辛くて酸っぱいスープがアッサムラクサのベースとなります。玉ねぎとミントハーブをお好みでトッピングします。スープが麺に絡まないの、箸で麺をつまんでツルツル食べるのではなく、レンゲで麺とスープをすくって味わうのが地元の食べ方です。独特のニオイと、香味野菜の強烈なパンチがあるので、

好き嫌いがはっきり分かれる郷土料理です。好きな人ならやみつきになること間違いありません。嫌いな人なら二度と食

べたくない罰ゲーム的な食べ物ベスト3にランクインすることになると思います！



あじラクサ



ペナンラクサ

<インド系のナシカンダール>

ナシカンダール (Nasi Kandar) はマレーシア北部の人気料理です。インドから来たタミールの貿易商が広めたと言われています。プレーンなものからマイルドな味付けのものまであり、カレーや様々なおかずと一緒に蒸したご飯を食べる料理です。ご飯の上には、フライドチキン、牛の脾臓のカレー、牛の角切り、ラム、魚卵、エビフライ、イカフライな

どのおかずが添えられます。通常、ナス、オクラ、ゴーヤなどの野菜も添えられます。ご飯の上には、カレーソースを混ぜたものをかけます。これは「バンジール」(浸水)と呼ばれ、様々な風味のものがあります。ナシカンダールは伝統的におかずと一緒に一つの皿に盛られることが多いです。しかし、現在ではメラミン製の小鉢がおかず用に使われることもあります。



東京にあるゼロツナシカンダールトーキョーお店のナシカンダール



いかカレーのナシカンダール

皆さん、ご紹介したマレーシアの料理は食べたくなりましたでしょうか？マレーシアを一言で表すとしたら、「おいしい料理に恵まれた多民族・多文化国家」です。様々な文化的背景を持つ人々が暮らすマレーシアは、間違いなくアジアで最も有名な文化のるつぼの一つです。マレーシアに住んでいて一番良かったと思うことは何か、人によって意見は違うと思いますが、皆が口を揃えて言うのは、マレーシアにはおいしい料理がたくさんあるということです。マレーシアに来たら、ぜひ伝統料理をたくさん食べて下さい！

(担当：令和2年度竜の子奨学生 東京電機大学 ファウズィア カマリナ)

編集後記

委員長 九州大学 ヨウ ジョ 楊 茹

この度、「竜の子奨学生」第28号の委員長を務めさせていただきました。論文の作成時期でもあり、少しバタバタしましたが、皆さんと協力して最後まで仕上げることができ、非常に達成感を感じました。特に、OBOGの近況報告を集めた時に、何名もの先輩達に「私も出しましょうか」と言って頂き、OBOGの皆さんのように温かい人になれればと思いました。コロナの為面会して編集することはできませんでしたが、オンライン編集会議とメールでのやり取りで皆さまと仲良くなり、元気をいただけたことに心より感謝致します。

委員 京都大学 ソウ カシン 郷 可昕

この度、会報誌の編集委員を務めさせていただき、本当にいい勉強になりました。今回私が担当した部分は交流会のレポートです。正直に言うと、自分の日本語能力にはあまり自信がないため最初とっても不安を感じましたが、編集委員会の皆さんや関係者の皆さんのサポートのおかげで、無事に完成しました。本当にありがとうございました。今回のレポートはきっと未熟なところもあると思いますが、素晴らしい思い出がちゃんと伝われば幸いです。

委員 東京電機大学 ファウズィア カマリナ

この度、竜の子財団の会報誌を編集する機会を頂き本当にありがとうございました。私にとって初めての会誌作成でしたので不安でしたが、皆さんと一緒に協力し無事に完成させることができました。マレーシアの各民族の伝統的な食べ物を紹介させていただきました。機会があれば、私たちの伝統料理を皆さんに食べてもらいたいです。学生生活も間もなく終わりますが、竜の子財団の関係者と寄付者の皆さまに心から感謝の言葉を申し上げます。



第3回編集会議後にて

委員 東京工業大学 アルビ ルフィア ジョフィ

この度、SPECIAL REPORT I「インドネシアの伝統的な結婚式」を担当させていただきました。この記事は私が楽しく書いたもので、皆さんにも楽しんで読んでいただけたらと思います。最初の編集会議は、オフラインで行いました。会議後にインドネシア料理屋に行き、楽しかったです。その後、オンラインでの編集会議のみとなりましたが、会報誌の編集に携われてとても嬉しかったです。お疲れ様でした！



第2回編集会議にて



第1回編集会議後にて



「その夢はきっと世界を変えていく」

夢 希望をかなえる為 僕たちは生きている
その夢はきっと世界を変えていく 平和のため
いろんな事があるけれども どんなときでも

作詞：竜の子奨学生

作曲：班 文林（平成21年竜の子奨学生）

仲間とともに乗り越えて 竜の子の誇りを胸に
夢 希望をかなえる為 みんなは生きている
その夢はきっと世界を変えていく かならず